

『老乞大』二つの清代改訂本における編纂方針の違い — “呢” の改訂をめぐって (上) —

石黒 章予

1. はじめに

『老乞大新釈』(1761)と『重刊老乞大』(1795)には、どのような編纂方針の違いがあったのだろうか?この疑問について考えるため語気助詞の“呢”に注目したい。

『旧本老乞大』(14世紀末)、『翻訳老乞大』(1517以前)には語気助詞の“呢”は1つも現れない。『老乞大新釈』で77個の“呢”が突如現れ、その用法は多岐にわたる。しかし『重刊老乞大』ではこの『老乞大新釈』で加えられた“呢”が17個へと大きく削減されている。この削減にはどのような意思が働いたのであろうか?用法によって削除されるものと、されないものが決まったのであろうか?それとも別の要因があったのであろうか?これが筆者の疑問である。

2. 先行研究

『老乞大新釈』と『重刊老乞大』の違いをめぐって語気助詞の“呢”を取り上げて分析したものとして、主要な先行研究は二つある。

2.1. 汪維輝(2005)

汪維輝氏は、『朝鮮時代漢語教科書叢刊』の「重刊老乞大」に対する解題において、次のように述べている(訳は筆者)。

『重刊老乞大』上下巻は、李湛等が正祖の命により編纂し、1795年(正祖19年)に刊行した。これは現存する『老乞大』諸版本の中で最後の一種である。『重刊老乞大』と『老乞大新釈』は34年を隔てるに過ぎず、言語の相違は大きくない。しかし『老乞大新釈』に比べいささか保守的な様だ。いくらかの部分は『老乞大諺解』の旧観を取り戻しており、これは初めのいくつかの対話を見るだけですぐはつきりとわかる。またたとえば『老乞大新釈』では句末の語気助詞“呢”が多く使われていたが、『重刊老乞大』では大方を削除し、残されたのは3分の2に達しない。したがって『重刊老乞大』の言語資料としての価値は『老乞大新釈』より低いようである。正祖は、前の代の英祖の時に改変した『老乞大新釈』があまりに口語的で、規範的でないため、もとに戻す必要が有ると考えたのかもしれない。なぜならわずか三十数年間で言語の変化が大きいといううちに、再び改訂したからだ。

以上の内容を要約すると以下のようなになるであろう。

- ①『重刊老乞大』と『老乞大新釈』の言語の相違は大きくない。
- ②『重刊老乞大』は『老乞大新釈』に比べて保守的で、いくらかの部分は『老乞大諺解』の段階に戻されている。
- ③句末の語気助詞“呢”については、『重刊老乞大』では大部分を削除しているので、『重刊老乞大』は『老乞大新釈』より言語資料としての価値が低い。
- ④正祖は、『老乞大新釈』が口語的で規範的でないので、もとに戻す必要があると考えて34年で再改訂をした。

2.2. 太田辰夫（1990）

太田辰夫氏は『『老朴』清代改訂本三種の言語』において、『朴通事新釈』・『老乞大新釈』・『重刊老乞大』を対象として、自身が選定した清代北京語の語法特徴7項目を用い、三書がそれぞれの点でどのようになっているかを分析し、その結果を対照している。この中から『老乞大新釈』と『重刊老乞大』の“呢”についての部分をみとみる。

太田氏は『老乞大新釈』の“呢”について次のように言及している。

本書に“呢”はきわめて多い。“哩”を来源とする“呢”よりも、疑問などがんらい“呢”であるべき“呢”のほうがはるかに多いのは、すこしく理解に苦しむところである。しかし文脈の関係から“哩”を来源とする“呢”を必要としない、ということもあるかも知れない。

そして用法として以下の4つを挙げている。

- 1) 特指問
- 2) 選択問
- 3) 条件あるいは仮定をあらわす
- 4) 精警をあらわすもの

次に、『重刊老乞大』の“呢”については次のように言及している。

助詞“呢”は「重老」ではきわめて少ない。先行する「老新」の“呢”を「重老」ではほとんど削除している。これは“呢”の多数が特指疑問文に添加されており、これを除いても意義に変化がないためである。しかし「老新」のなめらかな口調は、「重老」ではゴツゴツとした生硬なものと変化した。以下は「老新」の例である。

到得半箇月怎麼纔到這裏來呢
 你這箇月底，能到北京麼，到不得呢
 怎麼能說我們的官話呢
 你每日所做甚麼工課呢
 講甚麼書呢
 講書後頭又做甚麼工課呢

怎麼樣是免帖呢

上例のごとく「老新」では3話中に“呢”は7個用いられている。しかし「重老」では、この7個はすべて削除されている。このように“呢”を用いない傾向は、第30話まで続く。ただし例外として1例あるが、これは特指問でないためと、字句の中間にあるため見落としたということであろう。

這麼的呢很好

「重老」では30話まではこの例外を除き、“呢”は用いられず、31話以降、少数の“呢”を見る。

怎麼敢恠呢

おそらく当初の“呢”を用いない方針が、途中で変わったのであろう。しかし「老新」のように多くは用いない。用い方は減少している。

以上の内容を要約すると以下のようなになるであろう。

- ①清代に“呢”の勢力が盛んになった影響で『老乞大新釈』では“呢”が多く用いられた。
- ②『重刊老乞大』では先に改訂が行われた『老乞大新釈』の“呢”をほとんど削除しており、残されたものは非常に少ない。
- ③第30話までに“呢”は一つを残して削除された。これは用法として特指疑問文であり“呢”を除いても意義に変化がないためである。唯一残された“呢”は用法が特指疑問文ではなかったことと、位置が句中にあったために見落とされた。つまり、編纂の方針としては“呢”はすべて削除する方針であったが、用法により、あるいは偶然に残された場合があった。
- ④第31話から少数残された“呢”については、途中から“呢”を用いないという編纂方針が変更された。

3. 『老乞大新釈』と『重刊老乞大』における“呢”

3.1. “呢”の分類

清代改訂本の『老乞大新釈』及び『重刊老乞大』にはどのような編纂方針の違いがあったのか？この疑問について考えるために、先行研究を参考に『老乞大新釈』と『重刊老乞大』におけるすべての“呢”を拾い出し、それぞれについてより細分した分類を行い、その結果『老乞大新釈』と『重刊老乞大』の第何話に、いくつの、どのような用法の“呢”が分布しているのか確認してみることにした。

呂叔湘主編・牛島徳次監訳（1992）に掲載されている語気助詞“呢”の分類は以下の通りである。

1. 疑問を表し、諾否疑問文以外の疑問文に用いる。
 - a. 疑問詞疑問文に用いる。
 - b. 選択疑問文、反復疑問文に用いる。

- c. 反語に用いる。
- 2. 事実を指摘し、やや誇張を加える。
 - a. 可+形+呢
 - b. 才+動+呢
 - c. 还+動+呢
- 3. 平叙文の文末に用いる。持続を表す。
- 4. 文中のポーズ（停頓）を示す。
 - a. 主語の後に用いる。
 - b. 仮定節の末尾に用いる。
 - c. ほかの成分の後に用いる。

以上の分類をもとに、筆者は“呢”の用法を7つに分類した。まず1の疑問文において、通常疑問詞疑問文を特指疑問文とする。そして、選択疑問文と反復疑問文は形が異なるため別分類とした。そして疑問文の形ではあるが、意味的に反語の用法のものは別とした。2の確認、誇張などについては、“可”“才”“还”などの副詞に関わらず一つにまとめた。3の持続の用法は持続として分類し、4の停頓は、対比・列挙と仮定条件句、その他はまとめて停頓とした。

表1 “呢”の用法の分類

『現代漢語八百詞』の分類				筆者の分類	
1	疑問	a	疑問詞疑問文	特指	①
		b	選択疑問文	選択	②
			反復疑問文	反復	③
		c	反語	反語	④
2	確認、誇張	a	可+形+呢	確認・誇張	⑤
		b	才+動+呢		
		c	还+動+呢		
3	持続			持続	⑥
4	停頓	a	対比、列挙	停頓	⑦
		b	仮定条件句		
		c	その他		

3.2. 『老乞大新釈』と『重刊老乞大』における“呢”の分布

『老乞大新釈』から『重刊老乞大』への改訂の様子を見るために『老乞大新釈』の第何話にいくつの“呢”が表れ、その“呢”が『重刊老乞大』に残るかどうを示し、またその用法の分類を示す。

以下の表では、「新」が『老乞大新釈』、「重」が『重刊老乞大』、「分」が上に示した

用法による分類（二つの分類が考えられるものは二つ記した）、○が『老乞大新釈』において“呢”が出現していること、●が『重刊老乞大』においてその“呢”が存続していること、×が『重刊老乞大』において“呢”を削除していることを表す。

例えば、『老乞大新釈』第1話では2回の“呢”が現れ、最初の“呢”の用法は①特指疑問文で『重刊老乞大』では削除され、後の“呢”の用法は②選択疑問文で、やはり『重刊老乞大』で削除されたことを示す。

表2 『老乞大新釈』と『重刊老乞大』における“呢”の数とその用法

新釈 話数	1			2			3			4			5		
	新	重	分	新	重	分	新	重	分	新	重	分	新	重	分
1	○	×	①	○	×	②									
2	○	×	①	○	×	①	○	×	①						
3	○	×	①	○	×	①									
4	○	×	③												
5	○	×	②												
6	○	●	⑦												
7															
8	○	×	①	○	×	⑤	○	×	①						
9	○	×	①												
10															
11															
12	○	×	②	○	×	②	○	×	①						
13															
14	○	×	④	○	×	①									
15															
16															
17															
18															
19	○	×	①												
20															
21															
22															
23	○	×	⑤	○	×	⑥									
24															
25	○	×	①/⑥												

26	○	×	①												
27	○	×	①	○	×	①									
28															
29															
30															
31	○	×	①/⑥	○	●	④									
32	○	×	⑥	○	×	④									
33	○	×	④												
34															
35	○	●	⑦												
36															
37	○	×	④	○	●	④									
38															
39	○	×	⑤												
40															
41	○	×	①												
42															
43	○	×	④												
44															
45															
46	○	×	①												
47															
48	○	×	②												
49	○	×	④												
50															
51															
52	○	×	①												
53															
54															
55	○	×	①												
56	○	×	①	○	×	①	○	×	⑤	○	×	④	○	●	④
57															
58	○	×	⑥												
59	○	×	④												
60	×	●	⑦	○	×	⑤									

61																		
62																		
63	○	×	④															
64																		
65	○	●	⑤															
66	○	●	①															
67																		
68	○	●	①	○	●	⑦												
69	○	×	④															
70																		
71	○	×	①	○	●	①												
72	○	●	②															
73																		
74	○	×	①	○	×	①												
75	○	×	⑤	○	●	①												
76																		
77	○	×	④	○	●	④	○	●	⑦									
78																		
79																		
80																		
81	○	×	⑦	○	×	⑦												
82																		
83																		
84																		
85	○	×	⑤															
86																		
87																		
88	○	●	④															
89	○	×	④	○	●	④												
90																		
91	○	×	⑤															
92																		
93																		
94																		
95																		

96															
97															
98															
99															
100	○	×	④	○	×	⑤									
101															
102	○	×	①												
103	○	×	⑦												
104															
105															
106															
107															
108															
109															
110															
111															

(以下次号)